

小尾直藏編輯

朝鮮京城奇談

全

東京

報告堂梓

余近時朝鮮國ニ渡航シ京城ニ居住スルヲ日
 甚々淺シト雖其人情風俗ノ我國ニ異ナル
 實ニ著シキヲ以テ事々物々余カ知官ニ感覺
 ナ與ヘサルハナシ故ニ聊カ其所感シ記シテ
 以テ未ダ彼ノ國ノ人情風俗ヲ見聞セサル諸
 君ニ之ヲ示サント欲ス其序事ノ紛雜及ヒ文
 章ノ拙劣ナルヲ咎ムルヲナクンバ幸甚

明治十八年二月

小尾直藏謹言

朝鮮國京城奇談目次

第一	王都城郭及ヒ市街	一丁
第二	南山及ヒ北山	三丁
第三	國王及ヒ王宮	四丁
第四	諸衙門	六丁
第五	政黨	十丁
第六	廟堂及ヒ廟議	十三丁
第七	大臣貴顯ノ往來及ヒ賄賂	十四丁
第八	刑罰	十七丁
第九	結婚ノ年齢及ヒ儀式	十九丁
第十	男女夜中市中ノ往來	二十二丁
第十一	韓女及ヒ韓妓	二十三丁

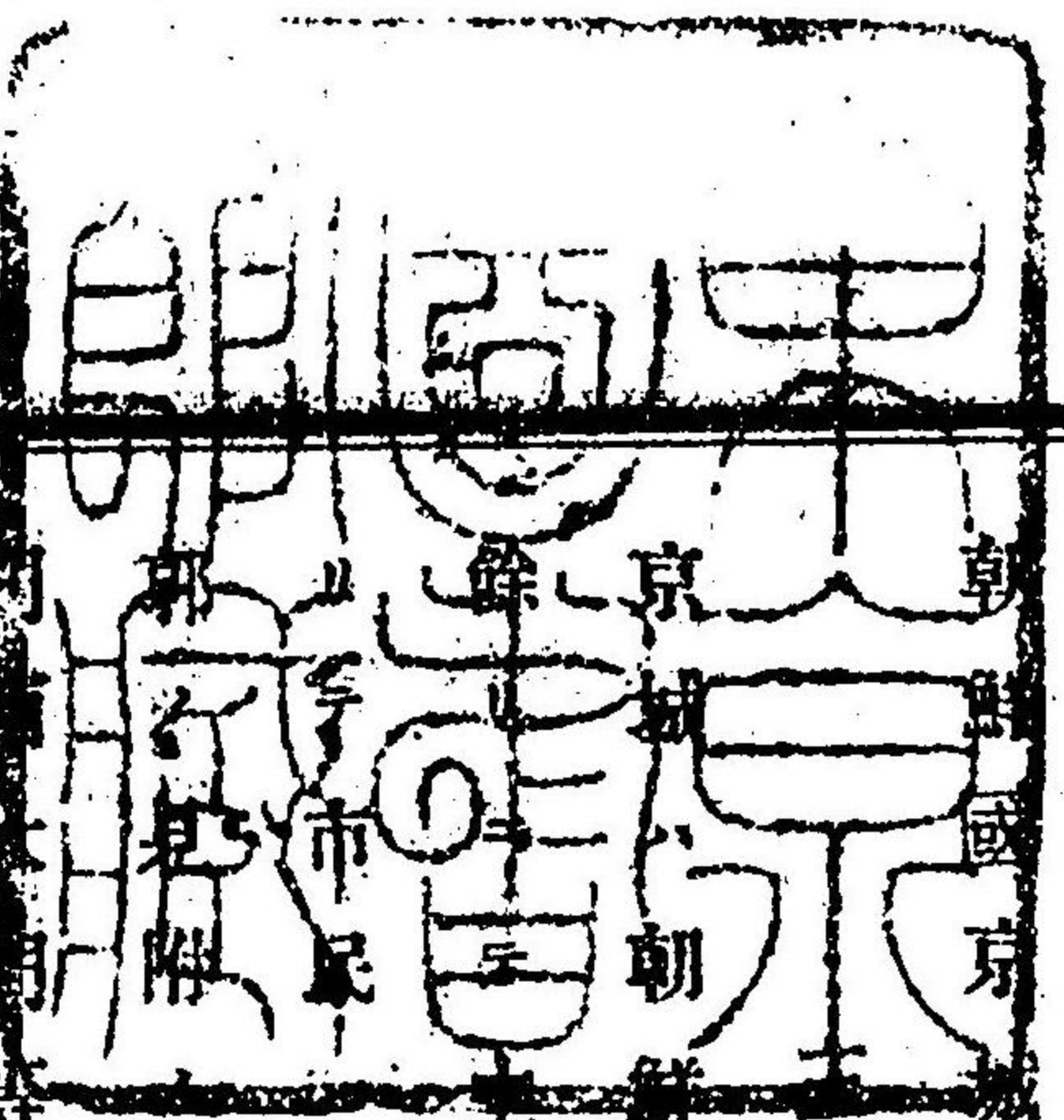
余近時朝鮮國ニ渡航シ京城ニ居住スルヲ日
 甚々淺シト雖モ其人情風俗ノ我國ニ異ナル
 實ニ著シキヲ以テ事々物々余カ知官ニ感覺
 ナ與ヘサルハナレ故ニ聊カ其所感ヲ記シテ
 以テ未ダ彼ノ國ノ人情風俗ヲ見聞セサル諸
 君ニ之ヲ示サント欲ス其序事ノ紛雜及ヒ文
 章ノ拙劣ナルヲ咎ムルヲナクシバ幸甚

明治十八年二月 小尾直藏謹言

朝鮮國京城奇談目次

第一	王都城郭及ヒ市街	一丁
第二	南山及ヒ北山	三丁
第三	國王及ヒ王宮	四丁
第四	諸衙門	六丁
第五	政黨	十丁
第六	廟堂及ヒ廳議	十三丁
第七	大臣貴顯ノ往來及ヒ賄賂	十四丁
第八	刑罰	十七丁
第九	結婚ノ年齢及ヒ儀式	十九丁
第十	男女夜中市中ノ往來	二十二丁
第十一	韓女及ヒ韓妓	二十三丁

第十二	衣服及ヒ裁縫	二十五丁
第十三	山水並ニ花木ノ事	全
第十四	飲食物	二十七丁
第十五	家屋	三十丁
第十六	乘馬	全
第十七	浴湯及ヒ結髮床	三十一丁
第十八	書齋骨董	三十二丁
第十九	巡查	三十三丁
第二十	通貨	三十四丁
第二十一	清兵ノ屯營及ヒ三間井洞	三十五丁



朝鮮國京城奇談

小尾直藏編輯

都城郭及ヒ市街
 京ノ王都ニシテ其大サハ周圍凡ソ日本里程三里
 餘ヲ以テ之ヲ圍ミタリ故ニ日本ノ城郭内ト異
 大抵此壁中即チ城郭内ニ居住ス此壁ニ日本城
 郭ノ其附
 如キ大門四箇所アリ通常ニ南大門北大門東大
 門南大門等ト云フ此門ハ皆四百年以前ニ建築シタルモノ
 ナル由ナレドモ頗ル堅牢ノ築造ナルヲ以テ當時猶依然ト
 シテ舊形ヲ存シ破損スル所アルヲ見ズ
 又此城郭ノ各處
 ノ規則ナリ故ニ仁地等
 ルト甚カラズト云フ

市街ノ中央ニ十間四方形ノ釣鐘堂アリ其釣鐘ハ高サ一丈五尺直徑九尺程ニシテ之ヲ拖テ各大門ノ開閉ヲ人民ニ報シ以テ通行ノ許否ヲ示ス

京城中最モ廣キ街道ハ錦路ト唱ヘテ都ノ中央ナル釣鐘堂ノ近邊ニアリ其幅凡ソ二十四五間ニシテ諸物品ノ問屋店ハ多クコ、ニアリ但シ問屋ハ日本ノ商店ノ如ク店頭ニ品物ヲ陳列セザルニ由リ何レガ如何ナル商店ナルヤハ一目ニシテ辨知スル能ハザレドモ日本ノ宿引ノ如キ者各店ヨリ街道ニ出張シテ客ヲ樂キ居レリ

總テ市街ニハ家々ヨリ糞尿ヲ所々ニ流出シアルヲ以テ其嗅氣實ニ鼻ヲ穿テ始メテ京城ニ入ルノ外國人ハ之ニ驚カザルモノ殆ト稀ナリ殊ニ雨天ノ時ハ糞尿ハ泥水ト混合シ

歩行ノ際踏ミ止テ左右ヲ顧ルヲ屢々アリ

南山及ヒ北山

王都ノ南北ニ山アリ南ニアルヲ南山ト云ヒ北ニアルヲ北山ト云フ南山ハ其高サ三四丁餘ニシテ嶺上ニハ通常毎夜ニケ所ニ火ヲ燒キ事變アルトハ三ケ所ニ之ヲ燒キテ以テ非常ヲ示スヲ例トス

南山ノ中腹ニ人家二軒アリテ山番ナルモノ之ニ住居ス又常ニ淨水ノ涌出スル所アリ市中ノ人民ハ此水ヲ最モ貴重ナルモノト信シ輕症ノ病ハ之ヲ飲メバ快復スル事ト妄信シテ一般ニ之ヲ藥水ト云ヘリ

且京城ニハ醫師甚ダ拙ク若シ病痼ニ罹ル者ハ盲目ノ賣卜者ニ依頼シテ占ヲ爲サシメ藥品ノ名稱及ヒ藥店ノ方位ヲ

聞キ然ル後之ヲ買求メテ服藥スルハ常ナリ
又北山ハ南山ロリ低シト雖ヒ紅葉ノ時節ナドハ景色甚
ク佳コシテ南山ノ如ク清水ノ少シク涌出スル所アリ

國王及ヒ王宮

北山ノ東方ニ當リテ王宮アリ其大サハ凡ソ二丁四方ニシ
テ人民ハ勿論外國人ト雖ヒ猥リニ其内ニ入ルヲ許サズ是
ヲ以テ余モ其詳細ヲ知ルコ由ナカリキ然レハ其建築ハ至
テ微々タルモノニテ別段ニ裝飾モナキ趣キナリ王宮ニハ
官女ノ他ニ宦官ナルモノアリ皇妃及ヒ官女ノ用ヲ便ズ其
柔弱ナル容貌ハ恰モ女子ニ彷彿タリ
國王ノ外出スルハ數百人ノ從者之レニ隨行シテ其道筋
ニハ十五六間毎ニ巡查ハ勿論其他五色打交ノ衣服ヲ着シ

獅子ノ如キ冠ヲ附ケタルモノ或ハ奇異ノ服ヲ着シタル者
護衛ヲナス其有様ハ實ニ奇觀ニシテ見物人山ヲナシ殆ソ
ト日本祭禮ノ如シ

北山ノ西方ニ舊大闕(舊王宮)アリ國人ニハ容易ニ縱覽ヲ許
サレレト外國人ニハ自由ニ之ヲ許ス其構内ハ堅四丁幅二
丁半程アリテ正門前ノ兩側ニハ石ニテ雕刻シタル唐獅子
相對シテ踞ス門上ニ光化門ト書シタル額ヲ掲グ礎上二三
間ハ大理石ニテ疊ミ其上ハ朝鮮ノ煉瓦ニテ積上グル凡
ソ三四尺又其上ニ高ク樓ヲ構ヘ門ノ入口ハ三箇アリ中央
ニハ最大ノ扉アリテ兩側ニハ孰レモ小扉アリ光化門ノ内
ニ興禮門ト云フアリ其宏壯ハ光化門ニ及ハスト雖モ決シ
テ尋常一様ノ衙門ニアラズ又左ノ方ニ用成門ト云フ小門

アリ此門内ニハ楊柳殆ント林ヲナシテ景色甚々美ナリ各
 殿中ハ寂莫トシテ人ノ居住スルナキノミナラズ階壁總テ
 破壊シ床上ハ枯草山ヲナシ鼯鼠ト雖モ其中ニ住ム能ハザ
 ルベシト思ハル程ニ荒レ果タリ尤モ所々ニ頗ル巨大壯
 觀ノ建築アリテ就中近年大院君ノ建築ニ係ル殿閣ハ礎モ
 柱モ皆石ニシテ柱ノ數ハ四十八本共直徑五六尺高サ壹丈
 程アリ此殿閣ハ廣サ凡ソ三百坪ニシテ蓮池ヲ以テ之ヲ圍
 繞シ甚々豪華壯ヲ極メ堅牢ナル建築ナリ

諸衙門

舊大闕ノ正門前ハ道幅甚々廣シ右側ニ工曹衙門刑曹衙門
 大司馬衙門霜台衙門中樞府親軍左營等ノ諸衙門アリ左側
 ニハ稟屯門地部衙門春曹衙門天官衙門及ヒ議政府ノ諸衙

門アリ此議政府ハ井上大使ノ金宏集ト今回談判ヲ開カレ
 タル所ナル由
 博文局ハ都ノ中央ヨリ三四丁南方ニアリ日本人ヲ僱聘シ
 テ毎週一回漢城旬報ヲ發兌シ其部數モ夥多ナリシガ彼ノ
 變亂後一時閉局ノ姿トナリタリシガ昨今再ヒ發兌ノ計畫
 ナナス由此旬報ハ諸官衙及ヒ地方役所ニ配達スルノミニ
 シテ人民ノ之ヲ購讀スルモノアルヲ聞カス而シテ此旬報
 ハ凡テ漢文ヲ以テ綴リタルモノナレハ人民中之ヲ購求ス
 ルモ其意義ヲ解スルコト能ハサルモ多キコトアラン故ニ此旬
 報ヲ朝鮮假名ニテ綴ルコト改正スルカ又ハ別ニ假名文ノ新
 聞ヲ發兌スルナランコトハ大ヒニ彼ノ國ノ進歩ヲ補助スル
 ニ至ルベシト余ハ思考スルナリ

郵征局ハ近時ノ開設ニ係リ亦都ノ中央ニアリテ頗ル堅牢ノ建築ナリ局ノ右側ニハ巨大ノ楠ニ類スル古木(五六百年ハ經タルモノ、如シ)一株アリ斯ノ如キ大木ハ京城中甚ク甚キカ故ニ人皆之ヲ珍寶トス此樹下ニ昨年新ニ井戸ヲ穿ナタリ元來京城ニハ井戸ハ甚ク稀少ナレハ從テ其職工ナルモノナシ故ニ之ヲ設置スルハ先ツ最初二十間四方ノ大ヒナル池ノ如キ穴ヲ堀リ水底ヨリ木製ノ角籠ヲ積上ケ而後テ其四方ヲ埋メタリ其工事ノ日數ハ四十日程ニシテ人夫凡ソ三十人ヲ要シタリ其他構内ニ松、杉、海棠等ノ樹木ヲ植附ケツレハ景色ハ遙ニ他ノ諸衙門ニ勝リタル佳致アリキ門内ニハ更ニ簡畧ナル西洋風ノ門ヲ設立セリ是ハ郵征總辦洪英植ノ注文ニシテ開明世界ニテハ家ノ經界ハ斯

ノ如キ門ニテ充分ナル趣キヲ聊カ人民ニ示スノ趣意ニ出テタル由
市中ニ十一ヶ所ノ郵鈔賣下所ヲ設ケ其係リ官吏ハ即チ郵征總辦洪英植並ニ李象萬、金樂集、安宗誅、朴泳好、沈相哲、徐光肅、洪吳厚、李商在、申洛均、趙昌教、安昱相、成翊永、趙漢尙、徐載昌ノ司事十四名(日本ヨリ備聘サ)モ命セラレ漸ク事務ノ緒ニ着キテ日々進捗スルノ場合ニ至リタリシニ豈計ンヤ今回ノ事變ノ爲メ一朝ニシテ水泡ニ属シタリ
郵征局ノ構内ニハ日々國旗ヲ掲ケタリ其高サハ凡ソ二丈餘ニシテ前記ノ楠ノ如キ大木ノ側ニ建テタリ朝鮮國內ニ國旗ヲ掲ケタルハ之ヲ以テ觸矢トナス由
局ノ構内ニ井戸ヲ堀リシト可笑キ一話アリコハ其探

サ凡ソ七八間モ堀リタルニ水脈ニ當ラザレハ更ニ水
ノ涌出スル様子ナカリシカハ其係リ役員ハ甚ク之ヲ
訝リ余ニ懷中時計ヲ以テ出水ノ有無ヲ鑑定ナシ呉レ
ヨト云ヘリ余ヤ抱腹ニ堪ヘス只穴ノ未ク淺キヲ示
シテ工事ヲ獎勵シタリ

政黨

朝鮮ニ政黨ニアリーナ事大黨ト云ヒ又一ナ獨立黨ト云フ
事大黨ハ支那黨ニシテ獨立黨ハ日本黨ナリ事大黨ノ首領
ハ閔泳聖ニシテ獨立黨ノ領袖ハ金玉均朴泳孝等ナリ金玉
均ハ頗ル才智アル人物ニテ大ニ國事ニ盡力シ一時廟堂ニ
餘程ノ勢力ヲ有シ頗ル開進ノ主義ヲ懷キタリ自邸（昨年七月
日即チ我公使館ノ引拂日ニ暴徒ノ爲メニ燒失セラレタリ）ニハ日本風或ハ西洋風ノ建

家モアリ家財器具ニ至ル迄和洋製ノモノヲ備ヘ頗ル日本
人ト交際スルヲ好メリ尤モ氏ハ前年我國ニ來リタレハ
頗ル日本ノ事情ニモ通曉シ且日本語ヲ能クシ甚活潑ノ人
ナリ今回ノ變亂後何レヘ往キシカ未ク踪跡分明ナラズト
云フ

朴泳孝ハ金玉均ト同シク今回ノ變亂後何レヘ往キシカ未
ク踪跡詳カナラザル由氏ハ前年我國ニ來リ日本ノ制度文
物ヲ看テ頗ル感スル所アリテ自國ノ制度風俗ヲ改良セシ
ト欲シ京城ノ辻々ニ日本ノ如ク便所ヲ設ケ彼ノ道路ヲ以
テ厠ニ充ツル陋風ヲ改メントシ自邸ニハ浴室ヲ建テ凡テ
入浴セザル習慣ヲ改メントシ又庭内ハ悉ク西洋風ニ模擬
シ或ハ西洋馬具ヲ置キタル馬ニ乘リ單騎ニテ府内ヲ通行

モシ程ナレハ殊ノ外守舊黨ノ憎ヲ受ケタル山
 洪英植ハ前領議政洪淳穆ノ實子ニシテ頗ル寛大ノ氣質ヲ
 有シ加フルニ英才アル人物ニテ人望モアリ且京城中屈指
 ノ學者ナリシ趣キ前年日本及ヒ米國へモ渡航セシヲアリ
 氏ノ父ハ京城ヨリ十四五里モ隔リタル田舎ニ居住シ頗ル
 守舊黨ナリシ由既ニ郵征開業ノ事モ大ニ非難セシ趣キナ
 リ故ニ氏ハ其開局前ニ當リ三週間モ父ノ許ニ至リ滞留ナ
 セシヲアリシガ是レハ密カニ父ヲ説得スルガ爲メナリシ
 ト云フ郵征ノ事業モ氏ノ尽力ニテ追々ニ進歩ノ形況ヲ呈
 シタルニ由リ變亂ノ前日榮進シテ大臣ノ列ニ進リ大ニ名
 譽ヲ博シタリシガ不幸ニモ暴徒ノ爲メニ殺害サレタルハ
 實ニ愛シム可キ次第ナリ

廟堂及ヒ廟議

朝鮮政府ニテハ少シク重大ノ事ヲ議スルハ現任ノ韓廷
 重官ハ勿論前領議政前參判等ハ總テ廟堂ニ出頭シテ其議
 ニ與ルヲ例規トス故ニ廟議ノ席ニハ守舊黨モアレハ開化
 黨モアリテ議論ノ一決スルニ至ルハ中々容易ノコトニ非ザ
 ル趣ナリ

今回變亂後ノ通信ニ據レハ變亂後廟堂ハ議論頗ル混雜ニ
 シテ左議政金宏集ニハ辭表ヲ差出シタル趣キ尤トモ所謂
 故老政府ナレハ疑キニ國內ニ布告シタル衣服斷袖ノ令ヲ
 近來ニ至テ廢シタル趣ニテ高官ノ者ハ皆禮服ノ袖ヲ廢シ
 セシト云フ故ニ目下ハ所謂復古回舊ノ形況ニシテ諸事退
 歩ノ姿ナルベシ而シテ現任重官ノ姓名ハ左ノ如クナリト

領議政	沈 彝 澤	左議政	金 宏 集
右議政	金 炳 始	外衙門督辦	趙 乘 鎬
協辦	徐 相 雨	穆 麟 德	卞 亢 奎
參議	高 永 喜	京畿監督	沈 相 董
吏曹判書	李 載 元	戶曹判書	金 泳 壽
禮曹判書	金 晚 植	兵曹判書	金 台 植
工曹判書	金 有 淵	刑曹判書	洪 詰 周

大臣貴顯ノ往來及ヒ賄賂

領議政左右議政(大臣)ノ王宮ニ出頭スル歟或ハ市中ヲ往來スルキハ馬又ハ橋ニ乘リ從者凡ソ十二三名ヲ隨ヘリ此輪ハ婦人ノ橋ト其形ヲ異ニシ腕椅子ノ兩側ニ二本ノ長キ棒ヲ附ケ其上ニ屋根ノナキモノナリ而シテ從者ハ其前後左

右ニ衛護シ其一人ハ長サ三尺乃至五尺程ノ烟管ト銅製ノ圓キ壺ヲ擔フテ隨從ス此壺ハ即チ小便壺ナリ又烟管ノ脛頭ハ其大サ日本ノ小盃程アリ

官員ノ俸給ハ甚々僅少ニシテ領議政ニテモ僅カニ一月五十貫文參判ハ三十貫文ニ過キズ然レハ賄賂ハ常ニ公行シテ俸給ノ不足ヲ補フヲ以テ習慣トス以テ未開ノ有様ヲ推知シ得ベシ

今官民ノ間ニ行ハル、賄賂ノ一例ヲ舉ゴ余一日典國局(造幣局)へ出張シテ豫テ差出シ置キタル粗惡ノ韓錢ヲ良善ノモノト引換へ落手シテ將ニ退局セントスル際同局ノ役員十八九名來リテ余ニ示シテ云ク元來朝鮮國ニハ十一條法ナルモノアリ足下若シ之レニ從ハザレハ間人甚ク多シ

ト余モ之ヲ聞キ當初充分ニ了解セザリシガ漸ク之ヲ熟思シ始テ此ハ余ニ口錢ヲ拂ヘトノ趣意ナラント察知シ心中大ニ憤リ機々應答ニ及ヒ談話關ハナル頃既ニ上官ハ退局セリ此際一人ノ日本人余ト同シク韓錢引換ノ爲メ日本公使館内ヨリ出張シ少シク同局ノ役員ト談話ヲ交ユルヤ否ヤ忽チ一場ノ爭鬪ヲ初メ終ニ此日本人ハ對手ノ韓人ヲ我公使館エ引致セリ是ハ畢竟日本人ノ所持シタル彼政府ノ韓錢預リ証書數枚ノ内一二枚ヲ役員ガ盜マントシタルヨリ起リタルモノ、由韓人ノ卑劣ナル名狀ス可ラザルナリ凡テ官吏ヲ貴ブ國風ハ他ノ未開化國ト一般ニシテ官途ニ就クナ人生ノ非常ナル榮譽ト心得澤山ナル賄賂ヲ費サレバ官途ニ就クヲ難ク又昇級スルモ賄賂ノ厚薄ニ因リ遲

速アル趣ナリ余一日知己ノ韓人ト談話セシヲアリ此人大ニ官吏ヲヲシテ希望スル様子ナレトモ資本ノ貧シキヲ如何セント語リシヲアリシ

刑罰

參判以上ノ官職ヲ有スルモノニ非ザレバ改機ノ服ヲ着スルヲ得ス又蠅蠅傘ヲ用フルヲ嚴禁セリ而シテ若シ之ヲ犯ス者ハ忽チ罰ヲ被ルニ至レリ

平民ニ對スル國法ハ一般ニ甚ク苛酷ナリ概中人民ノ外國人ニ對シテ罪ヲ犯ス者ニハ殊更ニ嚴酷ヲ加フルモノ、如シ昨年我公使館ノ建築中朝鮮ノ職工ガ日本大工ノ鑿一挺ヲ盜ミタルニ此事忽チ彼ノ政府ノ傳聞スル所トナリ之ヲ拘留シテ嚴罰ニ處セントスルノ様子ナリシカバ我公使館

ニテハ早クモ之レヲ悟リ罪人ヲ彼ノ政府へ引渡サベリヤ
 然レモ彼ノ政府ヨリ非情ニ之ヲ請求シタルニ由リ遂ニ之
 ヲ引渡シタリシカ其後此罪人ハ斬ニ處セラレタル由以テ
 人民ヲ罰スルノ苛酷ナルヲ知ルベキナリ
 斬罪ノ刑ニ處スルニ我國ノ處刑場ノ如ク定所ナクシテ何
 レノ場所ヲ問ハズ施行スルノ風習ナリ斬罪ノ模様ハ先ツ
 最初罪人ノ四肢ヲ切斷シ次ニ頭部ヨリ種々様々ニ細斷シ
 既ニ亡命スルモ尙之ヲ玩弄スルモノ、如ク實ニ苛酷ヲ極
 メ傍觀ニ忍ビサルナリ之ヲ推シテ韓人ノ人ヲ殺スニ慘酷
 ナルヲ想思スレハ今回日本人ノ殺害セラレタルハ必ス斯ノ
 如ク慘酷ナリシコトナラン余ハ切齒扼腕悲慨ニ堪ヘサルナリ

結婚ノ年齢並ニ儀式

嫁婦ノ年齢ハ男子ハ十三歳以上女子ハ十五歳以上ヲ以テ
 定リタル習慣トナス男子結婚前ノ頭髮ハ日本婦人ノ洗髮
 ノ如ク背ニ之ヲ垂ラシ其先ヲ支那人ノ髮尾ノ如ク組合セ
 リ結婚後ハ結髪シテ帽子ヲ着ス故ニ男子ノ有妻無妻ハ一
 目シテ了解スルコトヲ得ベシ且婦人ハ一度嫁シタルノ後ハ
 父母兄弟ト良人ノ外ニハ決シテ男子ニ面會スルコトヲ得ス
 又住室ニ閉居シテ獨リニ門外ハ勿論家外ニダモ散歩スル
 コトヲ得ス其趣ハ恰モ罪人ノ獄舎ニアルガ如シ蓋シコハ數
 百年來ノ習慣ニテ所謂習ヒ性トナリタルモノナレバ敢テ
 婦女子ハ之ヲ以テ窮屈ナルコトモ爲サルモノ、如シ實ニ
 奇ト云フベシ

今中等以上富豪家ノ結婚式ナルモノヲ聞クニ中々入組タ

ルモノナリ殿初婦ヲ娶ラントスル時ニハ必ず先ヅ其門地
 門閤ヲ質シ次ニ其先祖代々ノ徳義如何ヲ吟味シ若シ少
 テモ疵瑾アレハ其縁談ハ多ク整ハズ又新婦ノ容貌ヲ見ル
 事モ甚メ大切ナレド元來朝鮮ノ婦人ハ一切外出ヲ禁セラ
 レタル故ニ男女相見ル事ヲ得ザレハ郎ハ已ムヲ得ズ下婢
 ナシテ婦ノ家ニ往キ竊ニ其美醜ヲ視サシメ然ル後始メテ
 結婚ノ約束ヲ整フルヨシ結婚ノ約束既ニ整ヘハ郎ノ方ヨ
 リ四柱トテ郎ノ生年、生月、生日、生時ヲ記シタル書附ヲ婦ノ
 方ニ送り右濟ミシ上ニテ婚儀ヲ周旋スル者相會シテ婚縁
 ノ日ヲ取極メ婦ノ家ヨリ日ヲ擇デ郎ノ家ニ申送り婚禮ノ
 前夜ニハ郎ノ家ヨリ禮物并ニ婚書紙即チ婚縁ノ約束書ヲ
 婦ノ家ニ贈ル扱婚禮ノ當日ニ至レハ郎ハ大禮服ヲ着ケ誠

儀ヲ正シテ婦ノ家ニ行き必ず媒者ヲシテ一羽ノ生ケタル
 鴈ヲ持チテ先導セシメ婦ノ門前ニ着セハ其處ニ帳幕ヲ張
 リ一座ヲ設ケ媒者ハ先ツ尸ヲ取リテ卓上ニ置キ郎ハ其前
 ニ即テ再拜ス是ヲ奠鴈告天地ノ禮ト唱ヘ此禮畢リテヨリ
 郎ヲ新郎ト謂ヒ婦ヲ新婦ト云フヨシナリ是ヨリ新郎ハ新
 婦ノ家ノ正廳ニ入レハ新婦モ大禮服ニテ其席ニ出テ新郎
 新婦相對シテ立チ郎再拜スレハ婦ハ四拜ス此時媒婆ハ起
 テ盃ヲ舉ケ新郎新婦ニ各三盃ツ、ヲ勸メ之ヲ合歡酒ト名
 ツク婦ノ親戚モ一同集リ禮服ニテ此席ニ臨ム右禮畢リ新
 郎家ニ歸レハ新婦ハ其後ニ從テ共ニ郎ノ家ニ行キ郎ノ家
 ニテモ諸親戚相會シ禮物ヲ廟ニ獻シテ祭ヲ行ヒ然ル后郎
 ハ再ヒ婦ノ家ニ往キ共ニ寢ニ就ク之ヲ合禮ト名ツケ三日

ヲ經テ郎ハ婦ト共ニ家ニ歸ルノ慣例ナリト右ハ朝鮮中等以上富豪家一般婚儀ノ大畧ニシテ貧家ノ婚禮ハ全ク之ト違ヒ頗ル簡畧ナルモノナリト云フ

男女夜中市中ヲ往來

日本ノ如キ寄席、劇場、見世物ノ類ハ市中ニ一ヶ所モナク午後十時ヲ過レバ公用ノ他ハ男子ハ市中ノ通行ヲ嚴禁セラレ若シ往來スルモノアレバ巡查之ヲ咎メ或ハ官署ニ拘留シ或ハ鞭ヲテ苛酷ノ罰ニ處スルヲ法トス然レハ婦人ハ總テ之ヲ免スノ規則ナルカ故ニ中等以下ノ婦女子ハ夜ニ入リテ市中ヲ徘徊スルモノ多ク上等ノ婦人ハ日中ニテモ橋キリ（日本ニテ葬式ニ用アル樞ノ形ニ類シ橋夫）ニ乘リ下男下女五六人ニテ二人ツ、交代シテ之ヲ擔フ）八九名ヲ隨ヘテ往來ス

韓女及ヒ韓妓

韓女ハ近來日本人ノ妻妾ヲモ携提シテ入京スルモノアルニ因リ兎角日本婦人ニ交際セシムルヲ欲シ日本婦人ヲ招待セシトテ日々陸續相競テ橋キリヲ以テ迎ヒ來ルモノ甚ク多シト云フ

京城ノ婦人ハ一般ニ日本人ヲ愛スルヲ支那人ヨリ鍾ク男子モ亦日本人ヲ慕フノ模様アリ又遊妓ハ日本ノ藝者ト違ヒ我國ニテ云ヘバ士族トモ云フ資格アル者ナラバ遊妓タルヲ得ズ蓋シ王宮ニモ伺候スルヲアル故ナラシム然レ其數ハ京城中僅カニ十六七名ノミ何レモ世襲ノモノニテ一席五貫文（日本ノ五圓程）ヲ投ズレバ橋ニ乘リ應招來會シテ酒間ノ周旋ヲナス若シ双枕赤繩ノ縁ヲ結ハント欲セ

ハ十五貫文ヲ投セザル可ラス又其最モ優美ナルモノニ至
 テハ五十貫文ヲ費ササル可ラスト云フ故ニ固ヨリ貧民ニ
 ハ連モ力及ハザルコトヲ專ラ貴顯紳士ノ玩弄物クリ此
 外下等ナルモノ、淫賣ヲ業トスルモノアリ其價一貫五百
 文(日本ノ壹圓五十錢程)ヲ極下等トス蓋シ上等ノ藝妓ニテ
 モ間々夫ヲ有スルモノアレヒ下等ノ淫賣女ニ至リテハ大
 抵夫ヲ有シ皆活計上止ヲ得スシテ斯ノ如キ賤業ヲナス摸
 様ナレバ其夫ハ固ヨリ之ヲ默許スルノ姿ノミナラズ他客
 ノ愛顧ヲ受クルモ其夫敢テ尤メズ朝鮮政府モ亦ソノ姦ヲ
 咎メズ犯姦ハ普通ノ事ナリト云フ又朝鮮ニハ南男北女ト
 テ猶日本ノ吾妻男京女郎ト云フガ如ク南方ニハ美男子多
 シ北方ニハ美婦人多シト故ニ京城ニハ美人甚々稀ナリト

云フ

山水並ニ花木ノ事

朝鮮人ハ山水或ハ花木ヲ愛觀スルノ氣風ナキガ故ニ京城
 市中ト雖モ插花或ハ花木ナドヲ賣買スルモノアルヲ見ス
 偶々之レヲ求ント欲セバ東走西奔シテ漸ク(秋季ニハ)數本
 ノ菊花ヲ得ルコト實ニ容易ナラズ

衣服及ヒ裁縫

朝鮮ノ服色ハ專ラ白衣ヲ用ヒ黒衣モ著セザルニハ非ザレ
 ヒ甚々稀ナリ然レモ近來日本ヨリ歸國セル韓人ハ黒衣ヲ
 好ミテ着用シ同國ニ居住スル日本人モ黒色ナレバ自カラ
 黒衣ハ開化黨日本黨ノ色ナリナド、守舊黨ノ喜ハザル所
 トナリ殊ニ黒ノ洋服ヲ着スルモノニ至リテハ彼ノ夷狄ノ

服ニ倣フ杯ト罵リテ憎ヲ受ルコト甚シ故ニ今回ノ變亂ニモ
 黒衣ヲ着セルガ故ニ暴徒ノ爲メニ殺サレタル輩モアリシ
 由
 從來男子ノ衣服ハ日本僧侶ノ衣ノ如キモノヲ着セシガ昨
 年七月頃ニ至リ其袖ノ長クシテ不便ナレバトテ彼ノ國ノ
 所謂開化黨ナルモノ之ヲ改正センコトヲ主張シ遂ニ斷袖ノ
 令ヲ全國ニ發布シ八月頃ヨリ之ヲ施行スルコトハナレリ
 婦女子ノ衣服ハ西洋婦女子ノ如ク袴ヲ穿テ筒袖ノ服ヲ着
 ス且市中ヲ往來スルキハ萌黃ノ改機ニ似タル筒袖ノ服ヲ
 頭上ヨリ被リテ僅カニ目鼻ヲ出スノミナレバ恰モ不倒倫
 ノ非行スルニ彷彿タリ而シテ白晝ニ少女ガ市中ヲ往來ス
 ルキ偶々日本人ヲ看レバ十五間先ヨリ横道ニ避クルハ常

ナリ若シ横道ノナキハ何タル家宅ヲ論セス之ニ走入ス
 其狼狽ノ有様ハ抱腹ニ堪ヘズ又氣ノ毒ニ思フコト屢々アリ
 裁縫ハ甚綿密ニシテ且巧妙ナルコト日本婦人ノ遠ク及ブ所
 ニ非ス故ニ日本ノ裁縫物ヲ見レバ常ニ其粗濶ヲ嘲笑スト
 云フ

飲食物

三間井洞ノ東方四五町ニ鐘路アリ此邊ノ町ノ中央ニハ小
 屋掛ノ店夥多アリテ何レモ小道具類ヲ陳列シ其營業ノ種
 類ハ大抵同一様ナルモノ多シ大陰曆十月頃ハ大根（日本ノ
 ケ長カヲ概テ）唐菜（是レハ大ヒナル株ニテ至）柿（日本ノ
 五六寸位ナリ）葱（是レハ大ヒナル株ニテ至）柿（日本ノ
 然レモ至極柔ク）風味又佳ナリ（日本ニ）等ノ市アリテ非常
 ニ雜踏ヲ極ム且大根唐菜ノ如キハ道路ニ積立テ恰モ青白

ナル小丘ノ所々ニ隆起スルガ如シ是レ必竟市民ノ冬季ハ
 食物ヲ用意スルハ總テ此時節ニ於テ爲スニ由ルナリ
 下等ノ人民ハ夏時ハ甜瓜（日本ノ瓜ノ如ク）ヲ食シ冬時ハ大根
 ヲ食ス其價ハ三四本一錢位ニテ甚ク廉價ナリ
 牛肉豚肉ハ其價下直ニシテ凡ソ日本ノ半段段ヨリ尙安直
 ナレト皆甚ク腴ク又冬季ニ至レハ鶴肉アリ其價ハ僅カニ
 一羽六七十錢ニ過ズシテ風味頗ル佳ナリ京城ニハ生魚甚
 グ稀ニシテ冬季ニ至リ偶々鱈（鱈ノ類）ノ類アルヲ看ルノミ故ニ
 干魚類ヲ用フルト頗ル多シ但シ其風味ハ甚悪シクシテ日
 本人ノ風致ニ適スルモノナシ
 朝鮮料理ハ種々アレト前記ノ食物ニ唐芥子（トシ）ト（凡テ）ハ之ヲ好
 ムヲ混和シテ或ハ炭或ハ生ニテ食スルヲ通例トス故ニ韓

人ノ食事後談話スルトハ其嗅氣甚クシ
 飯ハ粥ノ如クニ炊キ大ヒナル茶椀或ハ銅椀ニ入レ匙ニテ
 食ス酒ハ三種アリ貴顯ノ人ノ用ユル酒ニテ極上等ナルモ
 ノ、風味ハ畧ホベルモット（洋酒）ノ腐敗シタルモノト同
 様ノ味ヲ有シ普通ノ酒ハ日本ノ焼酎ノ如キモノト濁酒ノ
 如キモノナリ
 日本酒ハ毎月一回往復ノ三菱漁船ニテ到着スレト常ニ在
 留日本人ノ需用ニ供スルニ足ラザルヲ屢々アリ當ニ酒ノ
 乏シキノミナラズ元來朝鮮人ハ菓子茶砂糖味附ノ類ヲ製
 造シテ賣却スルヲナキガ故ニ在留ノ日本人ハ總テ本國ヨ
 リ之ヲ取寄テ使用セザルヲ得ズ
 今回ノ變亂前ハ朝鮮商人等日本人ヲ傭ヒ西洋及ヒ日本料

理店ヲ開設スルノ企圖アリテ追々ニ進歩スル姿ナリキ既
 ニ水標橋邊ニハ六橋會トテ旅店ト此營業ヲナシモノア
 リ日増ニ繁昌シテ彼ノ郵征開業式ノ節モ此會ヨリ西洋料
 理ヲ仕出シタリ支那料理店モ此橋邊ニアリテ随分繁昌シ
 タリ又近來日本ノ菓子店モ開業スルコトナリタリ

乗馬

京城ニテハ貴顯ノモノニ非サレバ旅行スルノ他ニ市中ヲ
 乗馬ニテ往來スルモノヲ見ス又其乗馬ノ術ハ甚ク未熟ニ
 シテ日本函製ノ鞍上ニ跨リ其上ニ兩手ヲ突キ手綱ヲ用フ
 ルコトナシ其趣ハ殆ント日本ノ玩弄物ノ天神ニ似タルモノ
 如シ

家屋

建家ハ日本ノ神社佛閣ノ如ク戸口ハ凡テ開キ戸ナリ床ハ
 土ニテ塗り其上ニ厚キ油紙ヲ貼附ス床ノ下ヲ「チンドル」ト
 云フテ冬季ニ至レバコ、ニ火ヲ燒キテ室内ヲ温メ以テ寒
 ヲ凌グ中等以下ノ人民ハ夜具蒲團ノ備ヘナケレバ總テ此
 チンドルノ上ニ横臥シテ眠リニ就ケリ又室内ニハ常ニ小
 便壺ヲ備ヘ置クハ上下等ノ人民皆同一様ナリ此小便壺ニ
 ハ小便ノ外ニ痰唾或ハ芥塵ヲモ捨ツレハ其不潔ナルコトハ
 驚クベキ程ナリ

浴湯及ヒ結髪床

韓人ハ日本人ノ如ク日々ニ浴湯スルコトナケレハ京城市街
 中ニ一軒ダモ風呂屋ナルモノアルヲ視ス又肌着等ヲ洗濯
 スルコトナケレバ之ニ虱ノ群居スルハ常ナリ故ニ一度韓人

ノ床臥セシ跡ヲ看ルニ數十ノ虱ヲ席上ニ殘スヲハ厭々ニ
 シテ余モ或ル時之ヲ實見シテ驚キタリ
 結髪床ナケレハ人民自カラ結髪ヲ數十日間僅ニ一回ノ結
 髪ヲナスヲ以テ毛虱ノ夥多ナルハ實ニ驚クニ堪ヘタリ又
 齒ヲ磨クニハ粉ヲ用フルモノナク上等社會ハ鹽ヲ川ヒ
 下等人民ハ凡テ砂ヲ用フルノミ

書畫骨董

韓人ハ讀書作文並ニ書ヲ巧ミコナスモノ多クシテ一般
 ニ其巧拙ニ因リ人物ノ智愚ヲ判断スルノ風習アレバ凡テ
 古物ニ至テハ之ヲ鑒定スルノ利目ナケレハ外國人ナドニ
 廉價ヲ以テ之ヲ買取ラル、コ多ク又京城ノ北方ニ位スル
 町ニテ案洞ト云フ所ニハ書畫骨董店數十軒アリテ随分珍

敷キモノヲ陳列セリ五十ノ日ニ買物ヲナスハ平日ヨリ
 貳割程モ價ヒ廉ナリ是レ蓋シ此日ハ市民ノ勘定日ナルニ
 由ルナリ又市中ニテ日本人ノ買物ヲナスコアルハ忽チ
 見物人市ヲナス尤トモ韓人ヲシテ之ヲナサセムレハ必ク
 ス私ニ多少ノ口錢ヲ奪フハ常ナリ

巡查

巡查アリテ市中ヲ徘徊スト雖モ多少ノ報酬ヲ受テ人ノ使
 用ヲ違シ或ハ自己ノ用辨ノ爲メ多ク奔走スルモノ、如ク
 シテ人民ノ保護ハ不問ニ附シタルノ摸樣アリ故ニ偶々市
 中人民ノ爭論スルモノアルモ佇立シテ之ヲ見物スルノ巡
 査多ク是レ實ニ有名無實ニシテ勤モスレハ却テ窮乏ヲ働
 シモノモアル由

巡查ノ衣服ハ紺色ノモノヲ着シ帽子ノ形ハ人民ト一様ナ
レ氏其上ニ赤キ毛ノ磨幣ノ如キモノヲ附着シ居レバ一目
ニシテ巡查タルヲ知ル可シ

通貨

從來通用ノ紙幣ハ勿論金銀貨幣ナク只砂金(量目ヲ以テ賣買ス)ヲ以
テ通用セシニ何故カ近來彼ノ政府ニテ之ヲ禁シタル趣キ
ナレバ京城ニテ通用スルモノハ韓錢ノ一種ノミ韓錢ハ甚
タ重クシテ運般頗フル不便ナリ又其大サハ日本ノ寛永通
寶ニ似タリ一箇五文(五厘)ノ相場ニシテ錢位ノ名ハ即チ左
ノ如シ

- 五文(五厘) 十文(一錢) 十五文(一錢五厘)
- 二十文(二錢) 二十五文(二錢五厘) 三十文(三錢)

- 四十文(四錢) 五十文(五錢) 六十文(六錢)
- 七十文(七錢) 八十文(八錢) 九十文(九錢)
- 百文(十錢) 百五十文(十五錢) 二百文(二十錢)
- 二百五十文(二十五錢) 三百文(三十錢) 四百文(四十錢)
- 五百文(五十錢) 六百文(六十錢) 七百文(七十錢)
- 八百文(八十錢) 九百文(九十錢) 一貫文(一圓) 以下零ス

清兵ノ屯營及ヒ三間井洞

支那兵ノ屯營ハ舊大關ノ正門前ニアリ其南方ハ三間井洞
ト云フ東西ニ横タワリタル町ニテ既ニ今回變亂ノ際我竹
添公使ノ一行ガ公使館ヲ引拂ヒ仁川ニ趣クノ時支那兵及
ヒ韓人等ト頗ル苦戰セシ所ナリ但シ此時幸ニ我一行ニ
人ノ負傷者モナカリシハ彼ノ兵ノ未熟ニシテ且勇氣ナ

彼レロリ
マ飛ヒ
彈丸ハ
皆我一行ノ
頭上凡ソ三四尺ノ上



026427-000-0

特17-776

朝鮮国京城奇談

小尾 直蔵/編

M18. 2序

ADD-0080

